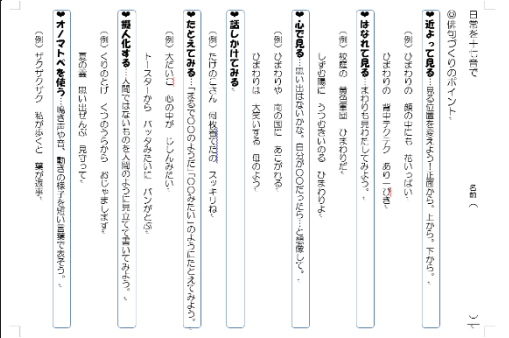

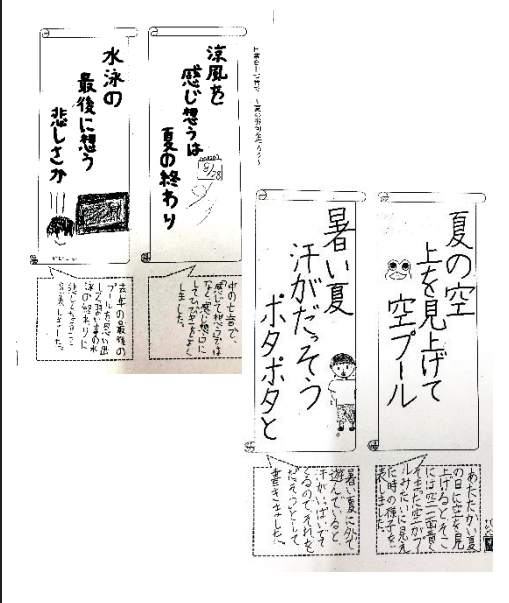


図書活用（図書館活用）実践

下小田中小学校 恩田 遙

教科「単元名」(時間)	国語科「夏の夜」「日常を十七音で」併せて実施(3/6)
<p>ざっくりした単元(授業)の流れ 子どもの様子、ワークシート *工夫</p>   	<ol style="list-style-type: none"> 「句会」を行うことを伝え、よりよい俳句を作れるよう情報収集するということを伝える。 「日常を十七音で」を読み、俳句の言葉の選び方や表現の効果について知る。 「夏の夜」を読み、夏の季語について知る。 学校図書館で俳句の本を探して、「工夫しているな、自分もまねしてみたい」と思う句を探し、ノートに書いていく。 歳時記とインターネットを使い、夏の季語を調べ、ノートに書いていく。 ※他のグループの探した本を借りに行ってもよいことを伝えた 調べた季語を使って、俳句をつくる。 ※俳句の作り方のコツをかけたプリントを配付し、それも参考にしよう伝える。 「俳句でみがこう言葉の力」日本学校俳句研究会監修、学研 参照 調べた句や季語の書いてあるノートを見ながら、自分の作った句の表現のしかたをもっと工夫できないか、他の季語に変えなくてよいかを考える。 「句会」を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①自分のお気に入りの2句を選び印をつける。 ②誰が書いた句かわからないようにするため、ランダムにノートをまわし、まわってきたノートに書いてある友達の2句をミニホワイトボードに丁寧に書く。 ③ホワイトボードに通し番号をつけて黒板に掲示する。 ④お気に入りの2句を選び、紙に選んだ句とその理由を書く。 ⑤投票、ベスト3を決める。 ⑥ベスト3は句の発表とその句を選んだ子たちに選んだ理由を話してもらおう。その上で、誰が作った俳句なのかを発表し、みんなで称賛する。
<p>選書の工夫、どんな本を使ったか</p>	<p>・俳句の句集、歳時記 ※冊数がたくさんあるわけではなかったので、クラスを図書でお気に入りの句を調べるグループとネットで季語を調べるグループに分け、時間でやることを交代させた。</p>
<p>本を活用することで、情報活用能力のどの力をねらったか</p>	<p>実践力の「あつめる力」(情報収集する力)</p>
<p>やってみての感想・その他</p>	<p>俳句や季語を事前に集めたことで、俳句の幅が広がった。資料が充実するともっと深まるように感じた。</p>

